

SDGs スタンダードな生活衛生・資源循環インフラ

—焼却・エネルギー回収・資源回収・最終処分の普及—

SDGs は、すべての人々の生活の改善によって、世界をより良いものへと変革することを目的としています。わが国の生活衛生・資源循環に関わる技術は、その目的に十分寄与するものであり、公害を出さない焼却・排ガス処理技術、WtE (Waste to Energy) の役割、早期安定化を誘導する埋立技術など、高度な発展を遂げてきました。他国へ技術供与する価値を十分に有するものですが、世界で普及するためには、生活衛生・資源循環インフラとして、よりシンプルな「SDGs スタンダード」が求められます。

本セミナーは、SDGs 実現のための技術供与のあり方を考え、制度と技術、焼却とエネルギー回収、資源回収、最終処分といった複眼的観点から、パネラーや会場来場者の方々と活発な意見交換をしていきます。関係者の方々の多数の参加をお待ちしております。

主催：廃棄物資源循環学会

日時：2019年 11月14日(木) 13時20分(受付開始13時00分)

場所：専売ビル 8Fホール

〔交通〕JR線田町駅、都営三田線三田駅から徒歩5分

〔定員〕150名(事前申込み制)

〔参加申込み〕学会ホームページ (<http://jsmcwm.or.jp/>) から申込みください。(事前振込のみ)

〔参加費〕(会員)5000円(非会員)7000円(自治体職員・学生)3000円

〔意見交換会費〕4000円

13:20~13:25 開会の挨拶

廃棄物資源循環学会企画運営委員長 秩父 薫雅

基調講演

13:25~13:45 「SDGs 達成のためにごみ処理技術が果たす役割とわが国が目指す展開」

環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課長 名倉 良雄

第1部 SDGs の目標・ターゲットと焼却・資源/エネルギー回収・最終処分

座長 東京都環境科学研究所 飯野 成憲

13:45~14:05 「多極世界が目指すSDGs：自立的社会インフラに必要な技術とシステム」

(キーワード：多極世界・インフラ輸出、焼却・最終処分の役割)

国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 河井 紘輔

14:05~14:25 「自然に還る最善の最終処分のために焼却技術に期待すること」

(キーワード：浸出水、安定化、塩類対策)

福岡大学環境保全センター 教授 柳瀬 龍二

14:25~14:45 「焼却残渣の環境安全管理と有効利用のあり方」

(キーワード：安定化、中性化、環境安全性、有効利用)

国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 肴倉 宏史

- 14 : 45～15 : 05 「燃焼、エネルギー回収、排ガス処理システムのあり方」
(キーワード：燃焼技術、エネルギー回収、排ガス処理)
(一社) 日本環境衛生施設工業会 技術委員長 増田 孝弘
- 15 : 05～15 : 25 「水分・塩分・金属成分を含む都市ごみ燃料: そのバリエーションにどう対応するか」
(キーワード：安全管理、廃棄物発電、灰の安定化)
大阪工業大学 教授 渡邊 信久
- 15 : 25～15 : 35 休憩

第2部 普及にふさわしいSDGsスタンダードな技術のありかたを探る

- 15 : 35～15 : 55 「SDGsにおける廃棄物資源循環技術の在り方」
国連環境計画 国際環境技術センター プログラムオフィサー 本多 俊一
- 15 : 55～16 : 50 パネルディスカッション
コーディネーター： 本多 俊一、パネリスト：上記講演者（各講演者の都合を確認後に決定）

SDGs 実現に向けた焼却、エネルギー・資源回収、最終処分のあり方と、技術的、制度的、経済的な課題等幅広く議論する。

- 16 : 50～16 : 55 閉会の挨拶
廃棄物資源循環学会副会長 長田 守弘
- 17 : 15～19 : 15 懇親会